



防災資材の整備（通常時）  
出火防止・初期消火（災害時）

地域で自主防災組織を結成し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識で災害に備えましょう。くらしいき課では設立の支援を行っています。お気軽にお問い合わせください。

地域で自主防災組織を結成し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識で災害に備えましょう。くらしいき課では設立の支援を行っています。お気軽にお問い合わせください。

何かあったら一番近くにいる地域の住民同士で助け合わなければなりません。災害はいつ起こるか分からないので、万全に備えて、もしものときは冷静に対処していきたいですね。

昨年、川北区は自主防災組織を結成しました。住民同士で協力して、災害のとき、きちんと機能できる強い組織にしていきたいです。川北区には関川があるため、住民は災害に危機感を持っています。同じ区でも住む場所で条件が異なるので、年2回、班ごとに防災訓練を行っています。災害は情報戦です。川北区を孤立させないように、トランシーバーなどの防災用品もそろえています。地区の避難経路や地滑り予測の地図も作りました。

愛情ねっと  
熊本県防災情報メールサービス

① <http://www.ai-jo.net/Community/>  
② [entry@anshin.pref.kumamoto.jp](mailto:entry@anshin.pref.kumamoto.jp)  
◆携帯電話からの登録は左の2次元バーコードを読み取ってください。

災害はいつ起こるか分かりません。旅行先や出張先で被災する可能性もあります。誰もが常に意識しておかなければなりません。自然の力は大きく、個人で立ち向かうことは難しいですが、地域や行政などみんなで連携することで大きな力になります。防災トライアングルをうまく機能させ、災害に強い安心で安全なまちにしていきたいです。

「自分の命は自分で守る」という気持ちで三位一体となって災害へ備えましょう。

**共助**  
地域で共に助け合う

平成7（1995）年の阪神・淡路大震災では、がれきの下から救出された人のうち8割が家族や近所の住民に助け出されました。大規模な災害が同時に多発した場合、行政だけでは対応することができません。災害時に頼りになるのは近くにいる地域の人たちです。自主防災組織の組織率が地域の防災に対する意識のバロメーターといわれています。国の組織率は77%、県は71%ですが、荒尾市は61%とまだまだ低いのが現状です。

**Interview**

**絶対に川北を孤立させない**

昨年、川北区は自主防災組織を結成しました。住民同士で協力して、災害のとき、きちんと機能できる強い組織にしていきたいです。川北区には関川があるため、住民は災害に危機感を持っています。同じ区でも住む場所で条件が異なるので、年2回、班ごとに防災訓練を行っています。災害は情報戦です。川北区を孤立させないように、トランシーバーなどの防災用品もそろえています。地区の避難経路や地滑り予測の地図も作りました。



川北区行政協力員 前田憲一さん（川北）

**公助**  
行政からの支援

行政から発信する気象情報や河川の状況など最新情報を入力することで、余裕をもって災害に備え、身の安全を守りましょう。行政からの情報をぜひ活用してください。

① 愛情ねっと  
荒尾・大牟田地域の大雨や台風などの防災情報をお届けします。

② 熊本県防災情報メールサービス  
県の気象情報や河川水位情報をお届けします。

◆登録方法  
次のURLにアクセスしてください。  
① <http://www.ai-jo.net/Community/>  
② [entry@anshin.pref.kumamoto.jp](mailto:entry@anshin.pref.kumamoto.jp)  
◆携帯電話からの登録は左の2次元バーコードを読み取ってください。

**最新情報の入手を**

荒尾市は災害の少ないまちではありませんが、昭和37（1962）年の豪雨では小岱山の土砂崩れで3人が亡くなりました。決して災害に無縁な土地ではありません。また、東に雲仙断層群、南に布田川・日奈久断層群があり、今後も災害に警戒する必要があります。

災害の際、電話の不通や道路被害などで、市や消防などの防災機関の機能が大幅に低下することが予測されます。災害時、最新の正確な情報は不可欠です。ラジオなどを準備しておくことはもちろん、行政からの情報を入力できるような「愛情ねっと」などへの登録をお願いします。

「自分の命は自分で守る」という気持ちで三位一体となって災害へ備えましょう。

**防災訓練を開催します**

防災訓練を通して災害に対する意識を高め、家庭や地域での災害対策に生かしましょう。

●日時 11月3日（月） 午前9時～  
●場所 あらおシティモール  
●内容 消火訓練、救出救護訓練、防災ヘリによる救出搬送訓練、炊き出し訓練、はたらく車展など

# 防災トライアングルで災害に打ち勝つ!

1 間くらしいき課交通防災係 ☎63-1395

2

3

自助 公助 共助

大規模な災害が発生したとき、防災の基本である「自助・共助・公助」の精神を軸に、個人・地域・行政機関が連携することで、被害を最小限にすることができます。毎年9月1日は防災の日です。災害への備えを見つめ直し、防災について考えてみませんか？

1\_平成21年7月、成田山前。2\_平成24年9月、宮内川河口。3\_ことし7月、市民病院前。

**自助**  
自分の命は自分で守る

大規模な災害の場合、同時に各地で被害が発生することが予測されます。交通障害や通信障害のため、防災関係機関の機能は大幅に低下してしまいます。そのようなとき、自分の命は自分で守らなくてはなりません。しかし、災害が発生すると、冷静な判断をすることが難しくなります。いざというときのために、平時から災害に備えましょう。

**【防災チェックポイント】**

- 家の中の避難路を確保し、通路に倒れたり落下したりしそうな物は置かない。
- 家具の固定や収納を工夫し、身の安全を確保する。
- 非常用持出袋を準備する。
- 屋根や塀などのひび割れを修理・補強する。
- 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼ったり、強化ガラスにしたりする。
- 浸水を防ぐ土のうや止水板を用意する。
- 避難場所や避難経路を確認する。
- 防災訓練に参加する。
- 家族と連絡方法や集合場所を確認しておく。

**Interview**

**日頃から災害に備える**

航空自衛隊を退職後、仕事で得た経験を生かし、災害時の被害を少しでも減らしたいと考え、防災士の資格を取得しました。

防災士として心掛けているのは、心に隙をつくらないうようにすることです。寝るときも枕元に必ず防災ラジオと警笛を置いています。パイロットをしていたとき、常に最悪な状態を想定したイメージトレーニングをしていました。テレビなどで災害のニュースがある度に、自分の周りに災害が起こったらどうするのが最善かをいつも考えています。災害はいつ起こるか分かりません。日頃から避難場所や避難経路の確認、非常用持出袋の準備など家庭でできる防災対策で災害に備えたいですね。